

第790回: 華語閑話

日本人は英語にせよ、中国語にせよ、文法や購読には強いけど、会話能力に長けた人はあまり多くない。そんなこと、偉そうに云えた義理ではないのだが、日本の中学や高校での英語教育は、今も昔も学問研究、文法中心で運用されており、あまりコミュニケーション向けではないからだろう。

だから、日本人がイギリスのどこかの駅の窓口で、ロンドン行きの切符を買うのに、「To London」と云ったら2枚出てきたので、これは前置詞「to」の使い方を間違えたかと周章狼狽し、「For London」と言い直したら、今度は4枚もくれた。どのように云えば切符を一枚だけ買えるか、咄嗟に言葉が浮かばず、「エーッ…」と呟いたら8枚くれたとか云う話を聞いたことがあるような。

筆者が40年前にゼロから学んだ中国語も頗る複雑で、これは何人も否めないところ。なにしろ「大方言」だけでも、北京語(北方語)、上海語、福建語、客家語、湘語(湖南語)などに分かれており、同じ上海語系の方言でも、「上海人」の喋る上海語はハード調、恋人たちが甘い恋を語るときも、横で聞くと(意味不明だが)男女が大喧嘩しているような印象を受ける。一方、蘇州市は上海から100キロしか離れていない郊外だが、「蘇州人」の会話はソフトで、(これも意味不明だが)蘇州語で穏やかに話していると思ったら、豈図らんや、掴み合い寸前の口論をしていたと云うようなことがよくある。

日本人は、「広東語」と聞くと、中国のどこか地方の方言だと理解するが、ある言語学者によると、上海語と広東語には日本語と朝鮮語以上の隔たりがあると云う。昔、東京外大中国語科卒の記者が特派員として北京の行事に参加した時のこと、劉少奇国家主席の演説が100%理解できず、思わず蒼ざめた。これでは本社に記事が送れない。慌てた日本人記者は隣にいた人民日報の記者に、「助けてくれ、劉少奇がなんと云ったのか要点だけでも教えてくれ」と泣きついたら、中国人記者が「心配無用、劉少奇は普通話(プートンホア、公用語＝標準語)を喋っているつもりだが、あれは湖南語そのもので、オレだって分からない。あとで演説の全文が、マスコミ関係者に配布されるから安心しろ」と云われたそう。

毛沢東の湖南語も相当強烈だったようで、1972年にニクソン大統領や田中角栄首相が毛主席と面談したとき、英語や日本語の中国人通辞が毛沢東の発言が聞き取れず苦労しているのを見て、周恩来や廖承志が湖南語から中国語への通訳をつとめ、フォローしたのは有名な逸話。当時、中国には毛主席の方言を標準語に翻訳するプロの通訳までいたらしい。

それで、毛沢東と部下のコミュニケーションはとれたかと云えば、時にとれなかったからこそ、延安整風、百花齊放百家争鳴、反右派闘争、大躍進などのトラブルが多発したとも云えるのでは？

もともと、毛沢東時代に政権の中核を担った要人と云えば、朱徳、董必武、劉少奇、彭徳懐、賀龍、林彪、任弼時、鄧小平、陳毅、李富春など、湖南省、湖北省、四川省など、毛沢東の出身地ないしその周辺の出身者が多く、毛沢東の方言を聞くことができた。毛沢東との会話に苦労した人物は、高崗、習仲勳(習近平の実父)など北部の出身者に限られ、実務上大きな障害はなかったという説もある。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

筆者が中国語を習ったのは「国際オリエンテーションセンター」という今はなき語学研修所、研修生3人のために用意された先生は何と6人で、徹底的にしごかれた。ビジネスマンにとって数字の聞き間違いや言い間違いは命取りになるリスクがあるので、特に数字は繰り返し何度も何度も練習させられたものだった。

中国語も日本語も、数字は一、二、三、四から始まり、百、千、万と続くのは日中共通だ…でも細かく見ると多少異なるところも少なくない。例えば、

- ◆ 「二(アール)」と「両(リャン)」。一般的に序数としては「二」、量詞の前には「両」とされている。だから二は、「第二課」、「二月二日」と、両は「両杯珈琲(2杯のコーヒー)」と云った具合。だが、上海人は「両」が大好きなようで、二月ですら「リャンユエ(両月)」と呼ぶほど。
- ◆ 「百」、「万」、「億」。日本語と違い、中国語では必ず「一」をつけ、「一百」、「一千」などと呼ぶ。日本語では「百円」、「百万ドル」が普通の呼び方で、「小銭がないから“一百円”貸してくれ」とは云わないし、「一千円」と呼ぶことも少ない。だが、「万」や「億」だと、日本でも「一」が復活し、「一万円」、「一億円」などと呼ぶので、日本語の方に問題があり、中国流の「一百円」が正しい呼称のような気もする。
- ◆ 「零」。中国語で最大の難所が「零(リン)」。日本語でもゼロを意味する「零」は、「本日の最低気温は零下5度」などと使うが、中国語は特殊な用法がある。アラビアンナイト、日本では「千一夜物語」だが、中国語で「千一夜物語」だと、夜伽のシェヘラザードは本来より99夜も多い、「1100夜」のお話をしなければいけなくなる。だから1001夜ならば、「一千零一」と零を入れる必要がある。尤も中国では、そんなリスクを避けたのか、アラビアンナイトは「天方夜譚」と訳されている。
日中商談で「1キロ当たり101元で買う」とオファーしたつもりで、うっかり「一百一(イーバイイー)元」と云ってしまうと、中国商人は当然「110元」だと理解し、大喜びで「ダン!(Done!)」してしまうので、あとで大変な目に遭うことになる。101は「一百零一」であり、「零」の使い方には注意が必要だ。

最近中国の政治経済を語ると、つい筆法が難詰調になってしまうので、今回は文化方面に転進し、筆者が上海駐在員時代に古典漢語を教わった「上海日本商工倶楽部<会報・上海>」の〇編輯長のコラムを拝借して、拙文をグダグダ綴った次第。華語閑話、文思枯窘、語言乏味、請海容。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2024年(令和6年)1月30日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券

東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

外国証券等について

・外国証券等は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き、日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大 1.1000% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.50% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3